



9月12日(月)～9月18日(日)の支援活動

支援所への支援物資提供
レストランプロジェクト
食材支援



ご支援総額

2022年9月16日までの寄付総額 101,162,631 円

寄付金使用総額 1522849.94 zł (4,416万円)

9/12(月)～9/18(日)の期間中の寄附金使用額

34557.68 zł(約100万円)

3月から支援物資の提供を行っている、クラクフ中央駅のカリタス支援所。こちらでは600名以上の避難民がリスト管理され、短い運営時間の間にたくさんの方が物資の受取りに訪れている。入口にはウクライナ語訳された日本の支援者の皆様のメッセージが貼付されている。

活動内容



支援所への支援物資提供

クラクフ中央駅地下のカリタス支援所へ週2回の支援物資の買い出し支援を実施。

現在カリタスでは、リストに登録された避難民へ消耗品セットを配布しているが、配布セットの中に入れていたトイレットペーパーがインフレの影響で価格高騰しており、最安値のものはすぐに完売してしまい、入手が難しくなっている。



レストランプロジェクト

4店舗と協力し1週間で約740食を提供。

ポーランドでは9月に入り一気に気温が下がったため、各レストランで提供されているウクライナの家庭的な温かいスープが好評。



食材支援（毎週金曜日）

26家族に1週間分の昼食用食材を提供。

一人あたり50złの予算を設け、合計で3697.63 zł（約107,000円）分の食材を購入。

季節の変わり目に入ったからか、間もなく旬の終わるぶどうや、スープ用の食材を購入する家族が多かった。

母親や祖父母と買い物に参加する子どもの姿も多く、買い物を手伝ったり、予算に余りが出れば好きなチョコレートを選んで購入していた。

写真(左)はスキャン作業を手伝う子ども。





現地の動向

ポーランド国内でのウクライナ支援への関心は低下傾向にあるが、依然として各地で公的・民間を問わずウクライナ支援が行われている。

9月17日(土)には、クラクフ市内にて日本人画家・澤岡泰子氏の作品チャリティオークションが実施され、ポーランド在住の日本人ピアニスト・瀬田敦子氏によるピアノ演奏も行われた。

このオークションでの落札代金は全てウクライナ支援に充てられ、一部を福田会のウクライナ避難民支援に充てて頂けるとお話を頂いた。

また、ポーランド国内に3000店以上の店舗展開をしている大手スーパー・Biedronkaは2月の侵攻後すぐにウクライナ支援を開始し、生活必需品の収集や、会計時に顧客に少額の寄付を選択出来るシステムを導入した。

9月の時点で800万ズロチ（約2億3千万）の寄付を集め、集まった寄付はカリタスやポーランド赤十字等に均等に分配され、人道支援に充てられている。

ポーランド赤十字は、新学期の始まったポーランド人とウクライナ人の子どもたちのために、学校に必要なものが取り揃えられたリュック70000個を配布した。

